

前回検討会（第8回 平成28年12月7日）における主な意見

1. 検討会における意見のとりまとめに向けて

- メディカルコントロール協議会の活用については、三次救急医療機関だけではなく、二次救急医療機関等の救急医療機関やかかりつけ医、関係機関が参加するということが重要なのではないかと。
- ロコモティブシンドローム、フレイルという用語は、まだ一般的に浸透しているものではないと思われるので、注釈等で説明を補足することとしてはどうか。
- 地域医療構想WGのとりまとめの段階では含まれていた、地域住民への啓発という記載がなくなっている。具体的に公表していく、住民へ伝えていくということは重要なので、何らかの形で記載しておくべき。
- 糖尿病の指標案としての、歯周病の発生率という記載について、必要性については理解できるが、現実的には、データの収集が技術的に困難なのではないか。
- 指標としての嚥下機能評価についても、データの抽出元が医科・歯科レセプトとそれぞれにあるので、収集及びデータの解釈に当たって注意が必要。
- 在宅の指標見直しについて、例えば在宅での看取りの割合等、アウトカムに関連するような指標を加えてはどうか。

2. 医療提供体制の確保に関する基本方針について

- 医療機関の自主的な取組みによって機能分化・連携を進めていくということについて、明記すべきではないか。
- 精神疾患の記載については、専門性を強調したものとなっているが、それだけではなく、一般医療との連携に関する記載等も必要なのではないかと。

以上